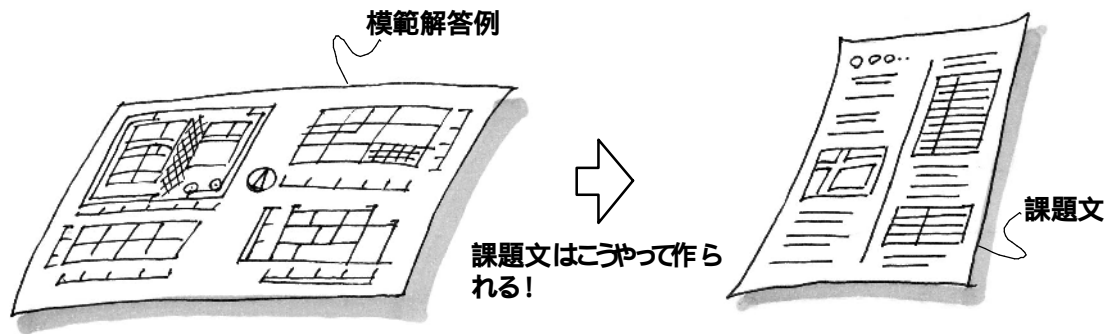


模範解答例作りって何？

早い話が、アナタにプランニングのルールをマスターしてもらうための、一番手っ取り早い訓練方法です。



課題文より先に、まずは、模範解答例が作成される。

模範解答例を元に、課題文が作成される。

本試験問題も含め課題文には、元となる解答例が存在します。その模範となる解答図面を『模範解答例』と呼びます。この模範解答例を元に、課題文が作成されるわけです。

この模範解答例を自由な設定で作成してみてください。所要室のネーミングも種類も数も大きさも全て自由です。全てアナタに決めて頂きます。もちろん、敷地の大きさや、周辺環境条件、作図条件なども自分で自由に決めて下さい（クライアントと設計者の一人二役を行うといった感じです）。

そんなことやって意味あんの？

1つでも多くの課題を解いた方が合格に近づけると思うのですが？

受験生
の本音

模範解答例作りの練習をするということは、早い話が自分自身の力で課題文（問題文）を作成できるようになることです。アナタは頭のどこかで課題文とは、どこぞの偉い人にしか作成できないものと考えていませんか？ だとしたら、アナタに一級建築士を目指す資格はありません。（だってね、プランニングもまともにはできない人間が、一級建築士を目指そうとすること自体おかしな話じゃないですか？）

本書には、実際に、現役受験生が作成した模範解答例を収録してあります。

大丈夫！ 水泳と一緒に、心構えと訓練次第で誰でも作成できるようになります。実際に、これまで一度も設計（プランニング）の世界に携わったことがない人でも、ちゃんとマスターすることが出来ています。

ただし！ 模範解答例の作成には、いくつかのルールがあります。
というか、そのルールに実際に触れてみるのがミソなんです。

1 .用紙サイズはA2サイズに限定！

模範解答例を作成する用紙サイズは、本試験同様、A2サイズに限定されます（当たり前ですが）。A2サイズの中に、図面を納めなければなりません。ということは、おのずと敷地サイズも決まってきます。敷地サイズの標準は、50m×50mとなります。また、床面積の合計は、2,500㎡程度となります。建物のウツワ（器）は、6×4コマを標準として下さい（17ページ参照）。

2 .6時間30分で受験生6割程度が完成できる難易度とする（H20年度までは5時間30分）

本試験においても、受験生の4割程度しか完成できないような課題文が出題されたとしたら大問題になってしまいます。そんな状況で、もし、あなたも未完成に終わってしまったら、「難しすぎる！」と試験元にクレームをつけることでしょうか。この難易度設定が非常に難しいのです。こだわりすぎると難易度が高くなりすぎてしまい、逆に手を抜いても掴みどころのない問題になってしまう難易度が高くなってしまいます（そこが、出題者側の泣き所であり、いわば、弱点です。そいつを学んで下さい）。

3 .千差万別の解答例が提出されてくるような課題文であっては困る

いろんな解釈が可能な課題文が本試験で出題されたとしたら、添削して図面の良し悪しを判定することができません（順位もつけられない！）。そこで、一発で図面の良し悪しを判定できるようにするための『落としどころ』を模範解答例の中に盛り込んで下さい（落としどころについては、巻末の折図を参照）。

では、実際に模範解答例を作っていきましょう！
その前に1つだけアナタに、お伝えしておきたいことがあります。

模範解答例を作成できる人間が、この試験に合格できないわけがない！

だってね、あなたのライバル達は、一度も実際にコロッケを食べたことがない状態で、コロッケ作りコンテストに参加してくるような連中なのだから。まずは、アナタにコロッケ作りのルールを知ってもらうことから始めたいと思います。